

第4回エコパークゾーン環境保全創造委員会 議事録

日時：平成20年3月27日(木) 14:00～17:30

会場：福岡国際ホール 九重の間

出席者：小島会長、青木委員、内田委員、岡本委員、包清委員、田中委員、田村委員、
逸見委員、迎委員、吉松委員

オブザーバ：国土交通省九州地方整備局港湾空港部海洋環境・技術課長 長掛 哲弘
環境局環境対策推進部長

議事要旨： (◎：会長，○：委員，□：事務局)

(議題1 エコパークゾーンで実施した環境保全創造施策の総合評価 事務局説明)

◎今説明いただいた件について、ご質問、ご意見をお願いします。

○アイランドシティ野鳥公園は市民として早くできることを期待している。和白干潟に接した護岸部分は例えば、砂浜、磯辺、干潟といったような緩やかな傾斜の護岸であることが望ましいと思う。また、かき、のり、わかめなどの生育を通じて野鳥の生息場所に備えることも自然環境保護につながると考える。香椎宮の聖域を侵さない範囲で海上公園などの設置も地域住民として要望しているのでよろしく願いたい。

□ご提案いただいたことについては、この委員会の次のステップとして21年度までにエコパークゾーンでの環境保全創造施策をとりまとめていくこととなるが、その中で今のご意見は取り入れて検討していきたい。

○資料2のp2のアイランドシティ護岸で和白干潟ゾーンの一部は直立護岸となっているということだが、野鳥公園の整備に併せて護岸の構造を今後検討していくという理解でよいか。

□野鳥公園前面については、基本構想検討委員会から人工干潟を創ってはどうかという提言をいただいている。それについては、これから検討していくと言うことで、現時点では将来の姿が見えないため、直立護岸のままにしている。

○覆砂区域での底生生物の種類の推移というグラフがあるが、平成15年をピークにここ数年間減少傾向にあるように見えるが、どう理解すればよいのか。

□グラフの左端に覆砂前の種数を掲載しているが、現時点でも覆砂前と比べると種数としては依然として多い状態が続いていると考えている。

○観測できた数なので実際はもっと多い可能性があるかと理解してもいいのか。

□調査結果の範囲でのデータなのでそういう可能性も考えられる。

◎今の質問について専門分野の委員から意見はないか。

○誤差の範囲内かどうかはこのデータだけではいえないが、少なくとも覆砂前と比べると多い状態が続いているということだと思ふ。

○種数について在来種が増えたのか。例えば悪い環境を指標する種が増えてきたとか、どのような種が増えてきたのか内訳はどうなっているのか。

□グラフの左側に写真で種類の一例を示しているが、出てきた種は従来から博多湾で普通にみられている種である。環境的にいい状態を指標する種や悪い状態を指標する種というのもあるが、どちらかが一方的に増えているという状況ではないと考えている。

○シズクガイなど環境的に悪い状態を指標する種もあるが、それらも環境の状態が良くと増えてくるので、そのことだけで判断するのは難しい。

ここで調査しているのは、底生生物ではなく底生動物ではないか。

□底生動物である。

◎資料は底生動物に修正する。

○のり、わかめなど出来たものはどうしたのか。

□3月に環境教育として30組の親子に板海苔などを作る催しをやって、皆さんに食べていただいた。今後については、漁業権などの話もあるので検討していきたい。

○アオサの回収も地引き網などを張って乾燥させて、市民に環境教育として渡すとよいのではないか。

□アオサの量は1日で100立方メートルとものすごい量であり、いろいろな生き物が付いていてそのままで食べられるものではなく、一部肥料などに使っている状態である。かりんとうなどに使っているのは岩に付いているきれいな状態のものである。

○アイランドシティ護岸等の状況について、整備の方向性が書かれていないので、この結果をどう評価したらよいかわからない。

□エコパークゾーンのゾーニングとしては、アイランドシティの護岸も含まれている。前回、アイランドシティの護岸も含めてはどうかということなので今回入れたもの。アイランドシティ護岸については評価と言うよりも現状を示している。

○10ページの図で、「護岸未整備」となっているところもあるが、「老朽化護岸」の一部を整備したと言うことでよいのか。

□「護岸未整備」については、前面に砂浜が広がっている場所である。

○老朽化護岸という箇所が整備した場所ということか。

□整備したのは老朽化護岸のうち、塩浜の部分について石積み護岸にしている。

◎この図の表し方として、例えば、下水処理場の放流口は平成8年にここに移動したと言うことなのか。

□下水放流口は平成8年当時はここにあったが、現在は海の中道の方に移動しているということである。

◎護岸未整備となっているところでは護岸整備の計画があるのか。

□現時点では具体的な整備計画はない。

◎そうすると、砂浜とか自然海岸と言うことなのか。

□ここには道路予定地があり、道路整備に併せて整備していくことを考えている。書き方は工夫したい。

○アオサ回収が遅れるとものすごくにおいがする。早めに回収してもらいたい。

◎アオサ回収に努力を期待しているということはわかりました。

○日本語として、何カ所か修正がある。最初の案の2行目から3行目にかけて。「干潟と浅海域は…」となっていて、最後に「浅海域が集中しています」となっているが、この「浅海域が」を取った方がよい。次の段落で、「博多湾の産卵・育成の場」とあるが、野鳥の産卵と誤解されてはいけないので、「魚介類の」と入れた方がよい。次のページの、御島ゾーンで「強熱減量、硫化物は覆砂4年後あたりから覆砂前と同程度のレベルに戻った」とあるが、「覆砂後、いったん減少した」ことが入るほうがよい。海の中道ゾーン

のところで、何もやらないことが保全であるということがわかるように書かないと伝わらない。3 ページで、目的のところに「規制」というのは違和感がある。4 ページ目の御島ゾーンで「改修前に比べて…」とあるが、「改修」とは一般的にいわないので「整備」とかになるのではないかな。

◎事務局は今の指摘について理解したか。特に3 ページ目の護岸整備で目的として、どういう整備をやったのかを示しているが、実施した事業を示した方がいいということだがどうか。

□検討する。

◎私もいくつか気になる点がある。1 ページ目、「博多湾では東部海域の北側に…」とあるが、「東部海域」として、「エコパークゾーンはその湾奥に位置し…」としたほうが、つながりがよく、わかりやすいのではないかな。

2 ページ目はアイランドシティの護岸等の状況を書いているということだが、表現を工夫したほうがいい。

○過去形で整備したと書いたほうがいい。

◎和白干潟ゾーンのところで「野鳥公園の計画地の前面は」とした方がはっきりする。

また、3 ページ目にも、ゾーン名を入れた方がいい。

4 ページ目のゾーン毎の今後の方向については、もう少し、エコパークゾーン整備基本計画のゾーンのイメージとつなげたソフト施策があってもいいのではないかな。

5 ページ目は全体のとりまとめだが、御島ゾーンと和白ゾーン以外についても触れた方がいいのではないかな。ご検討いただきたい。

□5 ページ目については、全体とりまとめの2 行目の中で総合的に述べているが、ゾーン毎にコメントした方がいいと言うことであれば、考えていきたい。

◎前回に比べるとわかりやすくなっているし、抜けている部分はほぼ無いと思う。表現について検討していただくと言うことでよいか。

次の今後の進め方について事務局から説明をお願いしたい。

(議題2 今後の進め方 事務局説明)

◎：最終的には平成 21 年度にエコパークゾーンの環境保全・創造計画をとりまとめていくということですが、ご質問、ご意見があればお願いします。

○：今後の計画のメニューに是非入れていただきたい地元住民からの要望がある。野鳥公園予定地の前面に人工干潟を創る構想があるということだったが、それを早く作ってから、埋立整備を進めていただきたい。今年、アイランドシティの住民が市の4 工区、5 工区の渡り鳥のバードウォッチングをする機会があった。せっかく来ている渡り鳥の逃げ場所を先に準備してから、埋立を続けていただきたい。その際、留意しなくてはいけない点があると感じている。地域住民に各戸配布された市民団体からのビラがあり、そのビラによると、既に疑似湿地があり自然の野鳥公園が出来ている。それを埋め立ててまで野鳥公園を整備する必要ないというものだったが、地域の自治会で検討した結果、埋立の途中で軟らかい地盤のままにしておくと地盤がゆるんで災害が起きたりするので、危険であることがわかった。きちんと地盤を整えた上での野鳥公園整備が必要と思う。こういった市民団体の動きが大きいと、間違えた知識が伝わる。わかりやすく市民に

説明して進めて欲しい。

◎環境改善メニューに人工干潟を入れて欲しいと言うことだが、どうか。

□人工干潟については、今後、どういうものがあるかを検討していきたい。

○人工干潟を創る方向に進んでいると考えてよいか。

□最終的に市としての意志決定がなされているわけではない。周辺環境の現状調査を行い、環境に与える影響の大きさ等を検討し、その後、決定していくことになる。

○市民の意向がどのくらい伝わって、作ったものかがわからない。今後、市民がどういう参画をしていくかを再生委員会や協議会などの枠組みで考える必要がある。市民を中心にして動いているというフローを確立した上で動いていくことが必要と考える。そういう位置付けを明確にして欲しい。

□エコパークゾーン整備基本計画の策定に当たっては、市民団体や市民の方々に参加いただき、エコパークゾーンを考える懇談会を作ってその提言を踏まえて計画してきた。今後の環境保全創造計画については、この委員会で検討していくが、ワーキンググループなどを作り意見交換をしていきたい。

○そういうフローがあれば、途中から参加した人も納得して議論できる。後で出てくる水域利用の委員会の位置付けなども整理して欲しい。

◎アイランドシティ整備事業をすすめていく上で、どういう形で市民が関わってきたのかをもう一度整理する必要があるのではないか。よろしく願いたい。

○香住ヶ丘の崖が崩れているところなど、対岸のことも考えて進めていただきたい。地域の代表として、こういう会議の内容は各町内会に伝えている。

□次回、アイランドシティ整備事業の流れや今後の委員会の展開を整理してお示しする。

○環境対策技術のメニューについて、海域整備技術のほか、人の誘導・規制に関する技術、景観形成技術なども考えられる。

今後の進め方で、この委員会でまとめたものがどう使われていくのか。実効性のあるものになるためには、計画をまとめた後の段階の方向も必要ではないか。

□計画のとりまとめの中でそういう考え方も入れていきたい。

○実施した事業について評価を受ける段階があるなら、紹介して欲しい。

□水域利用については、ルール作りを行った後、連絡会議で対応している。

エコパークゾーンの施策を実施するセクションはいろいろになるが、連携しながら進めている。将来的には統合するセクションも必要かと思うが、今後考えていきたい。

◎会長の立場から、計画をまとめた後を評価なり、実施状況をみていく必要性はわかるが、最終的に市長に出すとりまとめの中でその後について書いていくというやり方もあり、周辺環境のモニタリングの中でみていくというやり方もある。将来的にはこの委員会とモニタリング委員会を統合したような形で広い意味での博多湾の環境をみていく委員会が立ち上がればいいのではないかと考えている。

□現時点では、計画をとりまとめるまでのフローを書いており、最終段階で盛り込んでいくということを考えていく。

◎技術メニューについては項目だてをしてはどうかというご意見があったが、わかりやすくなる方法をご検討いただきたい。

○課題の抽出は今年度で終わっているのか。

□総合評価の中で問題点も入れておりますので、それが課題の抽出と考えている。

◎それでは、次の議題に進む。

(議題3 環境の現状と対策 事務局説明)

◎今の件についてご意見、ご質問はないか。

○アマモの種はどこで採取しているのか。

□博多湾の能古島から取っている。

○流況パターンの図だが、収束域は香椎地区という説明だったが、細かい図を見ると、和白と香椎の両方で考えるべきと思う。今後の環境を考える上で収束域はきちんと確認していく必要がある。

細かい点だが、アサリについては、重さは調査していないのか。浄化能力等を考える上でも重さで見える方がいい。

◎モニタリング委員会では殻の大きさも調査していたようだがどうか。

□数と殻長はみているが、重さは調査していない。

○今後は調べて欲しい。餌生物調査というのがあったが、野鳥公園でどういう鳥をターゲットにするのかによって形状が変わってくる。人工干潟もターゲットによって変わってくる。

○環境の現状と対策の位置付けはどうなっているのか。

□今後の検討の参考となるよう、19年度に実施した潮流調査結果などの新しい情報をお示ししている。

○今後の対策がハード面に重点が置かれているようであるが、今後はいかに市民を交えてやっていくかが大事と思う。アマモ場づくりなど小学校や自治会などと一緒にやっていくことが大切である。

○鳥類調査が夏は7月だけになっているのはなぜか。繁殖期を考えた結果なのか。

□これまでの飛来状況を踏まえて、モニタリング委員会で設定したものである。

◎環境監視計画については、モニタリング委員会の指導・助言を受けて策定しているということである。

◎私の方から、非常に危惧していることがある。野鳥の分布をみると市の4工区、5工区の疑似湿地でかなりの数が生息している結果になっている。

アイランドシティ整備事業はスピード感を持って進めていくということだが、今後どういう進め方をするのか。疑似湿地が消滅するスケジュールはどうなっているのか。

□現計画では5-3工区が最後で平成24年4月に竣工予定であり、その時点では疑似湿地はなくなる。

◎4年後には疑似湿地が無くなる。

野鳥公園が出来るのは平成24年よりもっと先になるということか。

□野鳥公園を作るには、埋立竣工後、地盤改良をして地面を固くしてから、予定の地盤高まで地面を削り取って高さを下げてからの整備ということになり、平成24年以降ということになる。

◎疑似湿地に飛んできている野鳥の居場所が無くなる可能性が非常に高い。野鳥公園で疑似湿地の全てをまかなうことは出来ないにしても、人工的な干潟を創ることなども考え

られないのか。

□野鳥公園基本構想には人工干潟を作ることも盛り込まれており、今後検討していく。20年度にどういう干潟がいいのか計画づくりを行う。

◎人工的に干潟を作った場合、干潟の機能が出てくるまである程度の時間が必要であり、スケジュールとしてはそういう点も考えないといけない。

○人工干潟が効果を発揮したとしても潮の満ち引きがあるので水位が安定している疑似湿地と全く同じにはならない。

クロツラヘラサギについては、居場所が無くなるので、疑似湿地が無くなるといなくなるかもしれない。

狭くてもクロツラは休息できるので、もう何年か疑似湿地を残すことができないものか。

◎貴重なご意見である。

この委員会としてそういうことを要望していくべきではないかと思う。

1点目は、疑似湿地の代わりとなる人工的な干潟などを早急に検討すること。

2点目は、疑似湿地について、埋立事業なので最終的にはなくなるにしても、野鳥公園までのつなぎという意味で整備手順を工夫することなどで、人工干潟や野鳥公園がそれなりの機能を持つまでのつなぎが出来るような整備手順を考えていただきたいということ。

この委員会がエコパークゾーンの環境保全を考えていく上で、野鳥の保護は重要な視点であるので、委員の合意がいただければ、委員会として市長に要望なり、お願いをしていきたいがどうか。

○休息場としての効果があるので、狭い池のような形でも残すことは意味がある。そういったことをこの委員会で要望するのはいいと思う。

◎アイランドシティ整備事業のスケジュールと野鳥公園のスケジュールを考えると疑似湿地が無くなってから野鳥公園を作ることになるので、その辺の手順を考えていただきたい。

疑似湿地が無くなる時点では、人工干潟や野鳥公園がその代わりの機能を果たしているようにしてほしい。

○残すだけでなく、他に新しく生息場を作ることも考えていけばいい。

◎そういうことも事務局で検討していただきたい。

今回いろいろな現状をご説明いただき、私の方から先ほど述べた2つの要望について提案させて頂き、委員の皆様のご賛同を頂いたと理解する。その要望の文章は私の方で作成、皆さんにお示ししたいと思うがそれでよいか。

○了解

(議題4 エコパークゾーン関連情報 事務局説明)

◎水域利用と来年度の環境調査についてご意見、ご質問はありますか。

○水域利用について強制力はあるのか。関係団体の紳士的申し合わせのようなものなのか。

□公有水面は基本的には自由使用であり、今回委員会に参加いただいたカヌーやボート、水上バイク、ウエイクボードなどを利用されている関係者間の自主ルールとして整理している。連絡会議を設置し、20年度以降も継続的に開催することとしており、市民に認

知されれば、将来的には条例のようなものにもつながることも視野に入れていきたい。

○団体に所属しない個人の利用もあるので、将来、条例などを見越した施策をお願いしたい。

◎砂浜海岸の利用等についてのルール作りはあったが、海域の利用についてのルールは日本でも初めてではないかと思うのでしっかりやっていただきたい。

○海浜植物の保護を積極的に検討していけば車の乗り入れ規制になりやすいので、両面からやっていくのも一つのやり方と思う。

○環境調査でエコパークゾーンの中にもポイントがあったかと思うが、資料の図では入っていない。違いは何か。

□資料の図は、港湾計画の環境影響評価を行うために必要な地点の調査である。

○和白海域の水質調査地点で COD の調査が抜けている年があるのはなぜか。

□工事影響のモニタリングは工事の進捗に応じて調査地点を減じてきている。その後、存在影響を見るという方向に方針が変わったこともあり、抜けている年がある。

○今後の事業を考える上でも、水質と底質はきちんとみていく必要があるのでよろしく願いしたい。

○今後の方向性でハードとソフトの区分はどうなっているのか。もう少し、整理してもらいたい。

□ここでのハードは施設整備を位置付け、それ以外はソフトとしている。アオサについては回収について検討すると言うことでソフトとしている。

○将来的にハードにつながるものはハードに入れた方がいいのではないか。

◎必ずしも、建造物を造ることにつながらないものもあり、それ以外はソフトとしているようだ。

○市民教育をソフトと捉えるやり方もある。

◎ハードとソフトについて事務局の定義を入れていただいた方がわかりやすい。

他に特になければ、これで本日の委員会を終わり、事務局にお返しする。

□次回の委員会は秋頃に開催する予定であり、別途委員にご連絡したい。

本日はありがとうございました。